

2024年5月2日



各位

株式会社 F R O N T E O  
代表取締役社長 守本正宏  
(コード番号：2158 東証グロース)  
問合せ先 経理財務管理統括部長 國枝宏美  
電話番号 03-5463-6344

## 特別損失(連結・個別)の計上及び連結業績予想の修正に関するお知らせ

当社は、2024年3月期第4四半期連結会計期間(2024年1月1日~2024年3月31日)において、特別損失(減損損失)を計上する見込みとなりました。これに伴い、2024年3月25日に公表いたしました2024年3月期通期連結業績予想を下記の通り修正いたしましたので、お知らせいたします。

### 記

#### 1. 特別損失(連結・個別)の計上について

##### (1) 顧客関連資産及びのれんにかかる減損損失(連結)の計上

リーガルテック AI 事業を展開する当社連結子会社である FRONTEO USA, Inc. (以下、FUSA) は、米国における企業や法律事務所の顧客基盤の強化を通じて、当該事業の拡大展開することを目的として買収した TechLaw Solutions, Inc. (2014年8月) (以下、TLS)、EvD, Inc. (2015年7月) (以下、EvD)、Essential Discovery, Inc. (2016年11月) (以下、EDI) の3社を統合して設立され、当社グループの事業ポートフォリオにおいて中心的な事業として展開してまいりました。

この度、FUSA 主要顧客の案件終了に伴い、FUSA の事業計画を見直した結果、株式取得時に見込んでいた将来の成長及び事業計画の実現が困難であると判断いたしました。この結果、それらを前提としたキャッシュフロー見込みにも変更が生じるため、FUSA (TLS、EvD、EDI の3社) の株式取得時に発生した、顧客関連資産とのれんの減損を行い、これらの減損損失を特別損失として計上することといたしました。なお、減損損失の内訳は下記となります。

顧客関連資産の減損損失	：	1,130 百万円
のれんの減損損失	：	1,260 百万円
<u>その他固定資産の減損損失</u>	：	<u>90 百万円</u>
合計	：	2,480 百万円

##### (2) 子会社株式評価損(個別)の計上

FUSA における減損損失計上に伴い、当社が保有する FUSA 株式の実質価値が著しく低下するため、当社が保有する FUSA の子会社株式評価損約 7,130 百万円を 2024年3月期第4四半期会

計期間に計上する見込みとなりました。

なお、当該子会社株式評価損は個別財務諸表のみに計上されるものであり、連結業績に与える影響はありません。

## 2. 2024年3月期通期連結業績予想数値の修正（2023年4月1日～2024年3月31日）

	売上高	営業利益	経常利益	親会社株主に帰属する当期純利益	1株当たり当期純利益
	百万円	百万円	百万円	百万円	円 銭
前回発表予想 (A)	7,400	△280	△220	△410	△10.42
今回修正予想 (B)	7,400	△180	△160	△2,900	△73.70
増減額(B-A)	0	100	60	△2,490	—
増減率 (%)	0.0%	—	—	—	—
(ご参考) 前期実績 (2023年3月期)	7,215	△1,361	△1,292	△1,701	△43.27

### (修正の理由)

売上高予想については、前回発表数値を維持し、営業利益並びに経常利益については売上原価及び販売管理費の最適化を行ったこと等による費用削減効果が前回予想を上回り、営業損失180百万円、経常損失160百万円となる見込みです。

また、「1. (1) 顧客関連資産及びのれんにかかる減損損失（連結）の計上」に記載の通り、当第4四半期において顧客関連資産及びのれんの減損による特別損失を計上する見込みであることから、これに伴い、親会社株主に帰属する当期純損失は、前回発表の410百万円から2,900百万円に修正いたします。

## 3. 財務制限条項に関する対応状況について

2024年3月期は2期連続の経常損失が見込まれ、またこの度の業績予想の修正に伴い、当社が複数の金融機関と締結しているシンジケートローン契約等に規定する財務制限条項に抵触する見込みとなりましたが、関係する金融機関に説明し、継続支援に向けて検討いただいております。

(※) 上記の業績予想は、本資料の発表日時点で入手可能な情報に基づき作成したものであり、実際の業績は今後の様々な要因により、予想数値と異なる場合があります。

以上

# 2024年3月期連結 業績予想の修正 (補足説明資料)

株式会社FRONTEO

証券コード：2158



# 顧客関連資産及びのれんの減損損失の計上

- 海外連結子会社（米国：FRONTEO USA, Inc.（以下、FUSA））の主要顧客の案件終了に伴い、FUSAの事業計画を見直した結果、株式取得時に見込んでいた収益の実現が困難であると判断し、顧客関連資産及びのれんにおいて連結ベースで約25億円を減損
- 減損損失は、リーガルテックAI事業の米国ビジネスを対象とした会計上の処理であるため、当該事業及び全社のキャッシュフローには影響しない
- AIソリューション事業の伸長により、減損損失約25億円を除くと当期純損失の赤字幅は大幅に縮小
- 来期以降は、顧客関連資産及びのれんの償却費が発生しないため、営業損益に関してはプラスに作用（売上減少＜損益改善）

## 減損損失の影響について（連結B/S）

※本資料の発表日時点で入手可能な情報に基づき作成したものです

減損前 (百万円)		減損後 (百万円)	
現金及び預金 3,043	有利子負債 2,844	現金及び預金 3,043	有利子負債 2,844
	その他負債 1,840		その他負債 1,840
その他資産 4,479	純資産合計 5,318	その他資産 4,479	純資産合計 2,838
のれん及び顧客関連資産 2,480			

※M&A関連資産：FUSAの保有する顧客関連資産及びのれんの全額（2,480百万円）

- ✓ B/S上の、顧客関連資産及びのれんの全額をP/Lを通じて特別損失として計上することで、これまでのM&Aに紐づく関連資産（顧客関連資産及びのれん）及び費用が解消
- ✓ B/Sマネジメント上のリスクが解消され、今後のP/Lにおいても、顧客関連資産及びのれん償却費が発生しないため、営業損益としてはプラスに作用

# 連結業績予想の修正サマリー

- 売上高予想については前回発表数値を維持
- 営業利益並びに経常利益については売上原価及び販売管理費の最適化を行ったこと等による費用削減効果が前回予想を上回る見込み
- 当第4四半期連結会計期間において顧客関連資産及びのれんの減損による特別損失を計上する見込みであることから、これに伴い、親会社株主に帰属する当期純損失は、前回発表の410百万円から2,900百万円に修正

(百万円)

	FY22	FY23 (前回公表値)	FY23 (今回修正値)
売上高	7,215	7,400	7,400
営業利益	▲1,361	▲280	▲180
経常利益	▲1,292	▲220	▲160
当期純利益	▲1,701	▲410	▲2,900
EBITDA	▲410	-	690